

笠を被った旅の女たちが江戸口御門より、入ってくる)

番士　おい、その二人、この関所の中では笠を取れ！」

志づ　はい、笠でございますか？こればかりは・・・勘弁下さい。」

番士　その方たち、高札の一つ目に　関所を出入る輩　笠頭巾をとらせ通すべき事』と書いてあるのが目に入らぬのか！」

里　ああ、そうございましたか！ですが、このようにお天道様が出ています間は“死害線”と申すまやかしの光線が出ており、それを地肌に浴びますと、すでに塔が立ってる幼馴染のお志づにとつては、それはそれは一大事でございますゆえ・・・。」

志づ　お里ちゃんだって人の事いえないでしょ！」

番士　何をわけのわからんことを申しておるのじゃ。その方たち、女であるな。調べを行う。こちらへ参れ！」

里　『意地でも傘は取らずに』先を急いでおりますので、手短に・・・！」

番士　だから傘は取れと申しておろうが！」

女たち、渋々傘を取る)

女たち、面番所へ行き、各々手形を差し出す)

番士　その方たち、関所手形を改める・・・名を名乗れ。」

里　はい、江戸、日本橋、あかね長屋、徳兵衛の娘　『と』でございます。」

志づ　同じく、与兵衛の娘　『づ』でございます。」

番士　旅の目的は何じゃ？」

女二人　はい、お伊勢参りでございます。」

番士　じゃが・・・その方たち、女の二人旅とはぶっそうじゃな。それに下男もおらんのか？荷物はどうしておるのじゃ？」

志づ　はい、荷物は飛脚に頼んでございます。」

里　私共は、今江戸で流行のお伊勢参りにどうしても行ってみたのでございます。」

番士　おーん、そうか。では、人見女のお福！　面番所内の福を呼び、向き直り）その方ら、改めを行なう！」

女二人　嫌でございます！」

番士　おぬしらの恥じらいもわからんではないが・・・高札の三つ目にも　関より外に出る女はつぶさに証文に引き合わせ通すべき事』と書いてあったであろう！」

志づ　ですが、男は良くて、女だけ改めるなど、どうにも合点がいきませぬ。」

里　お役人様、どうしてこの関所では、江戸から出る女“出女”には厳しいのでございますか？」

番士　おお、そうじゃのう・・・出女と申すのはだな、まず、全国の大名から、各々の奥方と娘を奉公人として江戸に住まわせておるのじゃ。」

里　奉公人？いい匂いにするのかしら？」

志づ　大質のことでしょ！それは一体どうしてでございますか？」

番士　大名の奥方と娘を奉公人、つまり人質として江戸に住まわせることによって、徳川の天下を良しとしておらん大名らが謀叛(むほん)を企てんようにする為じゃ。して、その人質の奥方と娘共が江戸から逃げ出して来んようにこの箱根の関所で厳しく監視しておるのじゃ。どうじゃ、わかったか？後ろにおる者たちもご理解頂けたか？では、人見女に改めてもらう。」

里　嫌でございます。やはり、どうしても納得いきませぬ！」

志づ たしかに、たしかに！」

番士 その方ら、わしら役人にたてつくと申すのか？・・・全く・・・まあ、どうせ、人見女はこのように動かなくなってしまうておるからのう。手形に目をやり（んん？・・・里、それに志づ、この手形の印判（んばん）が違（ちが）うようじゃが！さらに、当方の判鑑（はんかん）はんかがみ）とも合うておらん。よってこれは似非（えせ）手形じゃ！この関所を通す訳には参らん！一度江戸に戻り、手形を書き改めてもらうて参れ！」

里 ええっ？確かにこの手形はとても大変な思いをして、ええっと・・・お・・・おする？おさる？」

志づ 御留守居役です！」

里 あっ、そ、そう、大変な思いをして御留守居役のお役人様より頂いてきたものでございます！どうか今一度お改め下さい！」

番士 おぬしらがどんな思いをしてこの手形をもらうてきたかは知る由も無いが、確かにこれは似非（えせ）手形であるわ！おぬしら、さてはかような似非（えせ）手形でわしらの目を欺（あや）ま、この箱根の関所を破るつもりでおったな！関所破りは親殺しと同様の重罪、磔（はりつけ）であるぞ！」

志づ い、いえ、お待ち下さい、お役人様！そんなつもりはございません！・・・何かひらめいて あっ、そういえば、お役人様、長屋仲間の末吉さんから、お相撲さんと旅芸人は、手形がなくとも関所を通してもらえるて話を聞いたのですが、それはまことでございますか？」

番士 かんん、まあ、そのようなこともないことは・・・ない。」

志づ でしたら、話が早いでございます！私どもは、実は旅芸人でございまして・・・。」

里 ええっ……？そうだったの……？」

志づ っ……！芸人ってことにするの！」

里 あっ！・・・そ、そうでございます。私どもはしがない旅芸人でございます。どうかお見知り置きを。」

番士 おお、そなたたち、何か怪しいと思うておったが、旅芸人とは・・・。ならば、なぜそれを早く申さなんだ？この箱根の関所につめておると気が滅入（めいじ）ってくるからのお、芸を見るのが唯一の娯楽（ごらく）なのじゃ！・・・して、そなたたちは何の芸をしておるのじゃ？」

（二人で後ろを向いて）

里 「・・・ねえ、お志づちゃん、どうするの？何か当てがあるんでしょ？」

志づ あるわけ無いでしょ！」

里 ええっ……？何もできないのに芸人って言っちゃったの？信じらんない！」

志づ ざーしても、お伊勢参りに行くの！」

里 お志づちゃん、思い、つよっ！」

志づ ねえ、お里ちゃん、何かできない？例えばお手玉とか？」

里 お手玉？男を手玉にとるとかなら・・・。」

志づ 「・・・聞いた私が間違（まちが）いだったわ！」

番士 おぬしら、かなり大きな声で、一体何を企てておるのじゃ？ヒソヒソ話のつもりか？早ようせい！」

志づ あ、それでは皿回しをお見せしたいと思ひます。」

番士 おお、皿回しか？それは楽しみじゃ！では、早速見せてみい！」

里 お志づちゃん、皿回しできるんだ！すごい！」

志づ わたしはできないけど、お里ちゃんならできそうでしょ？」

里 ええっ……？いやいやいやいや、何をご冗談（じやうだん）を・・・。」

志づ 「・・・あの、お役人様、関所にお皿と棒なんてありますか？」

皿と棒を借りる）

二人 それでは、しづとさとの皿回し、はじめはじまり！」

志づ それでは、何の変哲も無いこのお皿をこの棒の上で回してみたいと思います！」

里 上手く回りましたら、拍手ご喝采の程、よろしくお願いいたします！」

志づ 「何となく回る」はいっ！如何でしょう？」

里 「いつもより多く回しております！」

番士 おおっ、愉快じゃ愉快じゃ！周りの皆も『こんなものか』とは思いますがまあまあ楽しんでおったな！」
志づ よっしやあ！」

里 では、私どもはこのまま関所を通らせて頂きます！ を二人立ち去ろうとする」

番士 まてまて・・・残念じゃ、まことに残念じゃ！その方ら、はじめから芸人である事を明かしておればそのまま通してやらんこともなかったものを！」

里 ですが、お役人様も周りの皆さまもお喜び下さっておりますが！」

番士 芸はさておき、似非手形を以ってこの箱根の関所を通ろうとするなど不届き千万！おぬしらをこのまま通すわけには参らん！詮議 せんぎ）が済むまで、しばし、獄屋へ入っておれ！」